



白石町立有明西小学校 学校だより

児童数 106名

令和7年度 第14号

発行日 令和7年7月10日

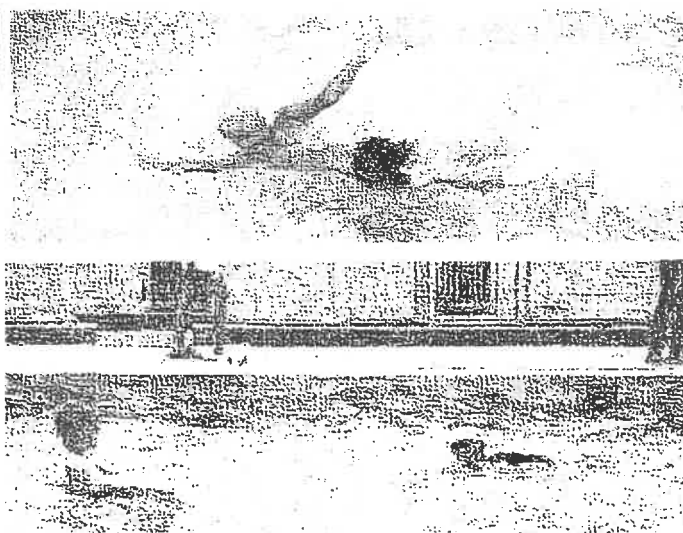
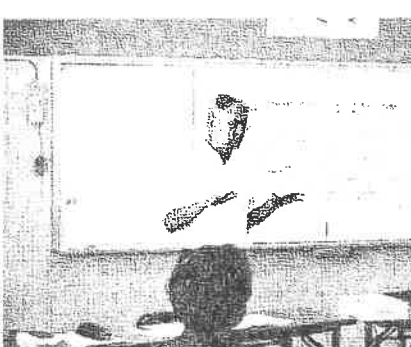
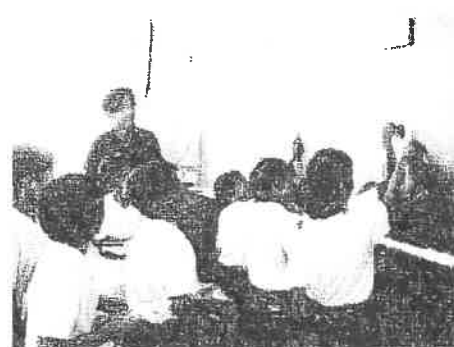
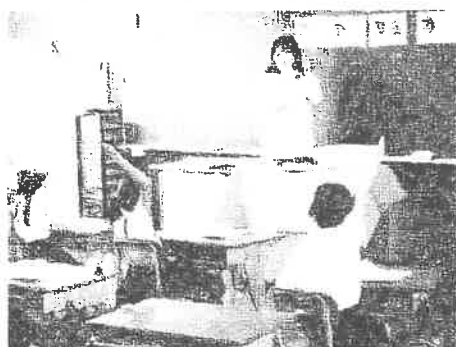
にしきえ

(長子配布)

人との関わりを大切にしながら、よく学びよく遊ぶ、幸せいっぱいの西小っ子
～新たなスタート2026へつなごう “にしきえの心”

西部教育事務所・町教委による「学校訪問」

7月7日、西部教育事務所と白石町教育委員会、校区内町議様による「学校訪問」が行われました。また、今年度は町長様も訪問されました。内容は、学校概要説明や2.3時間目は全学級の授業参観、学校環境点検、給食参観、意見交換でした。子どもたちは落ち着いた学習態度で、がんばっていました。また、4時間目は、2年生「水遊び」と6年生「水泳」の代表研究授業を行いました。子どもたちは、自分のめあてにむかって、一生懸命活動できました。今年度も授業の指導助言者として先生に来ていただきました。



重要！お子様をまもるために

本校でも、SNSやLINE、オンラインゲーム等を利用する児童が増えていて、便利な一方で、睡眠不足や思わぬトラブルや心の傷につながるケースが心配されます。こうしたトラブルは学校だけでは対応が難しいこともあり、必要に応じて、警察などの関係機関と連携する場面も出てきます。

ぜひ ご家庭でもスマホ、SNSやLINE、オンラインゲーム等の使い方について、お子さんと一緒にルールを話し合い、日々見守り・管理をお願いします。

お子様にスマホ・SNS・ライン等を「使用を許可している、スマホを持たせている」ということは、ご家庭でのご判断と責任のもとでの利用であることを、今一度ご確認ください。SNS等からお子様を守るのは、保護者様です。

なぜ子どもは、いじめや物かくしをしてしまうのか

「なぜ子どもはいじめや物かくしをするのか？」という問いは、子どもの発達段階や心理、環境など複数の要因が関係していて、非常に重要で難しいテーマです。

以下、主な理由をいくつかの観点からあらためて考えました。

1 自己肯定感の低さと優越感の獲得

自分に自信がない子が、他者を傷つけたり、劣位に置くことで「自分の方が上だ」と感じようとする場合があります。物を隠すことも、相手を困らせることで支配感や満足感を得る手段になります。

2 仲間意識・集団の同調

仲間から外されることへの恐れから、他の子がやっているいじめや物隠しに加担してしまふ場合があります。

「自分がやらないと自分がいじめられるかもしれない」という不安から、良心に反して行動してしまう子もいます。

3 大人の関心や反応を引きたい

家庭や学校で十分な関心や承認を得られていない場合、問題行動を通じて注目を集めようとする場合があります。

特に教師や保護者が問題行動のときだけ反応する場合、それが「注目を得る手段」になってしまう場合があります。

4 相手への嫉妬・対抗意識

勉強ができる、運動が得意、友だちに人気があるなど、何かしら「自分より恵まれている」と感じた相手への嫉妬心が背景にあることもあります。この感情が、「相手を困らせたい」「成功を邪魔したい」という行動に変わることがあります。

5 感情のコントロールが未熟

子どもは感情をうまく言葉で表現できず、イライラや不満が行動に出てしまうことがあります。例えば、「先生に怒られた」「友達とケンカした」などのストレスを別の子にぶつけてしまう（八つ当たり）こともあります。

6 家庭や周囲の環境の影響

家庭内で暴力や無視があったり、過干渉・過保護など、ストレスが大きい環境で育っていると、他人への攻撃的な行動につながる場合があります。また、メディアやSNSからの影響もあります。いじめを「かっこいい」「面白い」と捉えてしまうケースもあります。

7 保護者・大人・教師としてできること

- * 一人ひとりの気持ちを丁寧に受け止めること。
- * 傾聴を通じて「なぜそんなことをしたのか」に向き合うこと。
- * 「してはいけない」だけでなく、「どうすればよかったか」を一緒に考えること。
- * 子どもの良さや努力を積極的に見つけて、伝えること。
- * 子どもは親を見ていないようで、いつもしっかり見ていて、感じて評価している。
- * 子どもを変えたいと思うならば、信念をもちつつ、保護者・大人・教師自身が変わろうと思うこと、変わることが大切。